



清水寺で文化財防災について学ぶバラナシからの研修員の様子

Delegation from Varanasi Learning about DRR of Cultural Assets at Kiyomizu Temple

## Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこの SEEDS のロゴをかざすと簡単に寄付が頂けます。】

### Table of Contents Vol.60 (Sept., Oct. 2017)

- ・ バングラデシュ：都市部におけるコミュニティ防災力向上事業
- ・ インド：参加型コミュニティ防災推進事業
- ・ フィリピン：セブ州における学校の防災管理推進支援事業
- ・ ネパール：村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト
- ・ 日本：(1) 丹波市復興まちづくり協働事業  
          (2) 講師派遣
- ・ 本部からのお知らせ
  
- ・ Bangladesh: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas
- ・ India: Project on Participatory Community-Based DRM
- ・ Philippines: Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
- ・ Nepal: Project on Capacity Building of DRM for Village Development Committees
- ・ Japan: (1) Joint Project with Tamba City for Community Development  
          (2) Dispatch of Lecturers
- ・ Announcements from SEEDS Asia



特定非営利活動法人 SEEDS Asia

〒658-0072  
3-11-30-302 Okamoto,  
Higashi Nada ku, Kobe, Japan  
神戸市東灘区岡本3-11-30-302  
Tel: 078-766-9412  
Fax: 078-766-9413  
Email: rep@seedsasia.org  
Web: www.seedsasia.org  
Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>



## バングラデシュ

## 【JICA 草の根技術協力事業：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業】

## 本邦研修を実施しました！

9月4日から9月11日にかけて、バングラデシュから事業関係者を神戸に招き本邦研修を実施しました。研修には、カウンターパートである北ダッカ市防災課課長、同市広報室長、区長2名、コミュニティ防災リーダー3名、現地メディア編集者2名、およびSEEDS Asia現地スタッフ2名の合計11名が参加しました。

本研修の目的は、阪神淡路大震災という大きな都市災害を経験した神戸と京都から学び、北ダッカ市での今後の防災活動に活かしていくことです。人と防災未来センターや京都市防災センターの見学や、神戸市危機管理室および広報室、消防局、神戸新聞社、防災福祉コミュニティでの講義を通して、各関係者がそれぞれの立場からどのように防災に取り組んでいるのかを学び、それを踏まえ帰国後に実行する活動計画を作りました。

地元住民が自主的に防災活動を行っていることや、市が市民向けに発行している広報誌で防災啓発を行っていること、また、新聞社が防災におけるメディアの役割を強く認識し取組みを行っていることに参加者は大いに驚き、ダッカでもできるところから始めようと、災害に強いまちを作る思いを新たにしました。現地でもこれまで繰り返し議論を重ねてきたコミュニティ防災の意義が、本邦研修を通して当事者から話を聞くことでより深く理解されたようでした。本邦研修にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。



本邦研修の様子

## 国際防災の日

10月13日の国際防災の日にあわせ、本邦研修に参加した3つのモデルコミュニティがそれぞれの地域で防災イベントを開催しました。うち一つのコミュニティは小学校の生徒約100名とその保護者を対象に、地震とは何か、地震が起こったらどう行動すべきかを演劇も用いて分かりやすく伝えました。また、別のコミュニティは、まずは自分たちの家族から防災意識を高めたいと、コミュニティメンバーの家族を招いて懇親会を開き、火事と地震の予防と初期行動について映像やクイズを交えて話をしました。

ダッカではまだまだ住民の防災意識は低く、防災の日の認知度も極めて低いのが現状です。コミュニティが主体となってこの日にイベントを行うのは初めてで、地域住民が防災に関心を持つ第一歩になりました。



モデルコミュニティが地域の小学生向けに防災教室を実施



## インド

## 【日本 NGO 連携無償資金協力事業：バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業】

本事業では、防災教育／気候変動教育の拠点となる「クライメートスクール（CS）」5校とCSが位置する5地区に地域防災協議会を設置し、地域防災のモデルづくりを促進しています。2017年9月、10月は下記の活動を行いました。

## 本邦研修実施

10月22日から29日にかけて、インド・バラナシ市のクライメートスクール（CS）から6名、第11国家災害対応部隊から2名の計8名を京都市に招聘し、本邦研修を行いました。この研修は、京都市で育まれてきた防災教育や災害マネジメントに関わる知見と経験について学び、バラナシ市における防災教育と防災活動をより推進していくための能力強化を目的としています。

京都では研修初日である10月24日に門川京都市市長を表敬訪問し、京都市に於ける防災や環境の政策とその成果について具体的な事例や数値と共に共有頂きました。その後、京都市教育委員会や京都市行財政局防災危機管理室などの行政機関を訪問し、京都市としての防災政策や教育方針の紹介がありました。明治2年に番組小学校（日本初の小学校）64校が地域住民によって設立された京都では、地域と学校の連携が約150年に亘る歴史の中で受け継がれてきたこと、こうした連携の上で、京都の防災活動は学校と地域が一体になって展開されてきたこと、さらに防災教育スタンダードの設定等を事例として常に改善が図られてきたことを学びました。同日の午後にはその番組小学校にルーツを持つ京都市立高倉小学校を訪問し、学校に於ける防災教育や



京都市長への表敬訪問

防災マネジメントについての講義を頂いた他、校舎内の見学中にシエイクアウト訓練を視察しました。代表団は掃除中だった生徒がそれぞれに身の安全を守るための行動を迅速にとる姿を見て、「校内のどこでどんなことをしていても、子どもが急に真剣になってそれぞれの場所で身の安全を守る行動をとっていることに驚きました。訓練の賜物だと思います。是非自分の学校でもできるようにしたい」と口々に感想を述べていました。

同校の岸田蘭子校長は防災寺子屋・京都の太田興氏と共に2016年8月にバラナシで開催した防災ワークショップにお越し頂いており、代表団の教員らは再会を喜ぶ他、同校の5年生からはバラナシの子どもたちへのお手紙を頂きました。その後は、「スマイル21プラン委員会」と呼ばれる地域の学校運営協議会の活動について紹介があり、地域住民がどのように子どもたちの教育の改善を図り、安全を守る活動を行っているかを学ぶことができました。同校への訪問の他に、先斗町このまち守り隊、京都市立堀川高等学校、防災寺子屋・京都、京都学生防災サークル立命館FAST、朱雀第八自主防災会、京都市市民防災センター、清水寺と清水学区消防分団と自主防災会、その周辺の文化遺産と防災水利での研修・視察を行い、実際に地域住民として、学生として実践している防災活動事例の紹介・視察の機会を頂きました。

最終日には、それぞれの研修先で学んだことの振り返りを兼ねながら、バラナシ子どもも防災気候新聞「プラハリ」に掲載し全市的に広めるための「バラナシの子どもに伝えたいメッセージ」を発表しました。その上で、研修を踏まえた今後のアクションプランの策定が行われ、研修中に学んだことをそれぞれのCSで取り入れたい点について協議・発表を行いました。代表団メンバーの教員からは、「ゴミ一つない町の美しさに感動したと共に、市民の能力の高さが京都の町を形成してきたことが分かった。公助に依存せず、まずは自分の学校から環境と防災活動を推進していきたい」など、帰国したあとの意欲的なコメントが見られました。



東山区清水・弥栄防災水利ネットワークの視察

## フィリピン（セブ）

### 【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における学校の防災管理推進支援事業】

#### 本邦研修実施

9月5日から13日にかけて、教育省第7地方事務所とセブ州内パイロット地域市町の教育省地区事務所の防災管理コーディネーター計11名を兵庫県に招聘し、本邦研修を行いました。この研修の目的は、学校防災管理を指導するチームであり、事業実施の基盤となる参加者たちが、日本の学校で実践されている学校災害への備えや危機管理の実践から学び、能力強化することを目的としています。パイロット市の1つで

あるマンダウ工市の市役所防災管理局からも職員が1名、市費にて参加しました。兵庫県にて、県教育委員会による講義や、学校での避難訓練、被災地の視察、防災博物館である人と防災未来センターの見学、そしてワークショップにて研修中に学んだこと及びそれぞれの担当地区の防災管理に取り入れたい点について協議・発表を行いました。なお、研修前の8月11日、16日、29日に参加者向け事前オリエンテーションを行い、研修の目的、概要、日本のビジネス習慣等について情報提供も行いました。参加者からは、「本邦研修で見たこと、経験したことは、とても価値あることでした。研修のおかげで、教育省地区事務所の防災管理担当、地方自治体の防災管理局職員、コミュニティなどと協力しながら効率よく、効果的に防災管理の様々なプログラムやアクティビティ、プロジェクトを導入することができるでしょう。」など、今後研修を活かして事業に取り組んでいく前向きなコメントが見られました。



本邦研修にて集合写真

#### セブ州での国内研修実施

本邦研修に加え、10月16日から20日の5日間は、セブ州内の会場で学校防災管理指導チーム国内研修を行いました。同指導チームに加え、それぞれの教育省地区事務所長、副地区事務所長など計18名が参加しました。本邦研修と同様、学校防災管理指導チームの能力強化を目的としていますが、イントロダクション、プランニング、ステークホルダーの巻き込み、実践演習、テスト、クロージングという6セッションに分け、約30の項目をアクティビティも含め行いました。外部講師として、フィリピン大気地球物理天文局、エンジニア、消防署、マニラの防災専門家、社会福祉省、セブ州およびタリサイ市防災管理局職員などを招聘し、専門的な内容の講義を行いました。最終日には、5日間の学びを理解したかどうかを測るために修了試験を実施しました。参加者からは、「今回学んで今後の仕事に活かせることとして、「命の安全とレジリエンス」というゴールを目指すための学校防災管理の制度や基準を深く学べた」と述べていました。今後は、本邦研修の内容も活かし、学校防災管理チームの運営指針作成を進めています。



国内研修の様子

## セブ市との了解覚書締結

9月22日に、本事業実施におけるパートナーシップを深めるため、パイロット地域の一つであるセブ市と了解覚書に調印しました。セブ市を代表して、市長のトマス・オスメニヤ氏と、同市防災管理局のナジエル・パンニヤシヤ氏が署名しました。6月28日に、市長に事業の概要を説明しており、その後調印に至りました。引き続き他の事業地でも、市町長への表敬訪問と了解覚書締結を進め、教育行政と防災行政の連携を促せるよう試みていきます。



## ネパール

### 【中央共同募金会：村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト】

#### ジャンガジョリ・ラタマタ村でのワークショップの実施

2015年4月のネパール地震後、SEEDS Asiaは生活物資や学習教材を届ける緊急支援を経て、「よりよい復興」に向けたコミュニティ防災活動支援として、現地のNGOであるCDCCS（災害・気候変動研究センター）とともに、防災ワークショップを行っています。

防災ワークショップは7回シリーズで構成され、シンドウリ郡の3つの村で実施を予定しています。4月で全7回のワークショップを終了したプラノ・ジャンガジョリ村に続き、選挙が終了した7月から9月にかけて、ジャンガジョリ・ラタマタ村でのワークショップを実施しました。



ワークショップにて災害の概要を学ぶ

本ワークショップでは、約20名の村開発委員会のメンバーが、まずは4回のワークショップで災害の基礎知識、ネパールにおける災害に関する法律や行政による防災政策や計画などの概要を学び、防災に向けてコミュニティでどのように取り組むべきかを話し合いました。第5回では防災訓練を企画し、第6回のワークショップとして、参加型の防災訓練を実施しました。参加した51名の住民は、防災訓練以外にも、災害に関する歌や詩を作り、防災への意識を高めました。第7回の振り返りのワークショップでは「災害時にどのように行動すればいいかが分かった」「地震だけが災害だと思っている人も多いので、様々な災害について学べたことがよかった」「ワークショップにはより多様な立場の人が参加するほうがいいと感じた」などのコメントがありました。



避難訓練の様子

今後は、3つ目となるクセスワ・ドゥンジャ村でのワークショップを開催予定です。また、ワークショップを実施する中で、住民から数多くの体験談が語られました。それらは防災・減災のための課題であるとともに、語り継ぐべき貴重な教訓です。今後、世代を超えて教訓を活かすために、冊子の作成も予定しています。



ジャンガジョリ・ラタマタ村での避難訓練の参加者



## 日本

### (1) 【丹波市復興まちづくり協働事業】

#### 吉見小学校での教員研修会

9月27日、防災教育研究指定校のうちの一つ、丹波市立吉見小学校の教員研修会にて、「学校防災の重要性」というテーマの講話をしました。東日本大震災で被災した学校の例を取り上げ、日常的な地域との連携を災害対応に活かして子どもの命を守ることと、そのためのツールとして防災まちあるき点検と防災マップづくりを推進することの重要性を話しました。また、地震と津波が発生した時のタイムラインを見ながら、先生方に「どのように行動することが適切だったか」という意見交換もして頂きました。

阪神・淡路大震災が発生した時は物心がついていなかったという若い教員の方は、「私自身が大きな災害を経験したことがないので、子ども達に防災教育をどう伝えたらいいのかがわからない、と思っていました。今一度、過去の災害の教訓について自ら学習すること、そして周囲の先生方と日頃から話し合っておくことで、緊急時に子どもの命を最優先にした行動を取れるようにしておこうと改めて決意しました」とおっしゃってくれました。

## 竹田小学校の防災オリエンテーリング

10月25日、丹波市立竹田小学校では「防災オリエンテーリング」が開催されました。既に実施されている、地域を訪問しふるさとについて学ぶ「オリエンテーリング」という活動に防災の要素を盛り込み、平成26年豪雨災害の影響を受けたファームやお寺も訪問先に含まれていました。竹田地域は同災害で被災しており、ファームの方が「3年前の災害を覚えていますか？お家に土砂が入ってきた子もいるのかな」と問いかけると、手を挙げた児童もいました。その方は、「大変な時に前を向けたのは、周りの人に助けてもらったからです。皆も、周りの人を助けられるようになって下さい」というメッセージを伝えておられました。お寺の和尚さんは、本堂の中に入り込んだ土砂が川のようになっていたことや、ボランティアの支援により復旧ができたこと、そして現在も復旧中であることを、写真を交えて紹介されました。訪問先は2つとも共通して「命の大切さ」を説いていました。



ファームの方々と児童とのご対面

初めての試みだったこともあり、先生方は事前準備や当日の運営で大変だったはずですが、このような取組みが仕組化され毎年行われることで、児童の防災意識の高まりが期待されます。



お寺の和尚による説明

## (2) 【講師派遣】

SEEDS Asiaでは、全国の学校や地方自治体、企業などの民間組織・団体の講演会やイベント等、幅広い方々を対象に、講師を派遣しています。2017年9月—10月には以下の講師派遣を実施しました。

## 第4回アクサ ユネスコ協会減災教育プログラム

日本ユネスコ協会連盟主催、アクサ生命保険株式会社協力で、9月18日から20日に宮城県気仙沼市、岩手県一関市にて行われた第4回アクサユネスコ協会減災教育プログラム教員研修会に、コーディネーター、講師として参加しました。このプログラムは東日本大震災の被災地域への訪問を通して、大震災からの学びを各地の学校での減災教育に活かすことを目的としています。全国から選抜された22校、36名の教



第4回アクサ ユネスコ協会減災教育プログラム教育研修会 参加者

員が集まり、ESD（持続可能な開発のための教育）の理論、防災・減災教育、ネットワーク構築、2013年にSEEDS Asia協力で開発された「防災学習シート」を用いたカリキュラムなどについての講義、気仙沼市教育委員会の講話に参加しました。SEEDS Asiaが昨年まで行っていた東日本大震災被災者支援事業を持続発展させた、気仙沼市階上小学校での防災授業見学、震災遺構として気仙沼向洋高校の視察も行いました。最後のワークショップにて、教員が研修成果の共有と今後の展望について発表しました。必要なことや新たに取り入れたいこととして、「南海トラフ地震を想定して様々な避難訓練やハザードマップの作成」、「地域が核となる防災・減災教育」などの声が上がりました。参加した教員は今後各校での減災教育改善を目指し、2月の活動報告会にて実践内容を発表し、また各地の発表を学び合います。



減災授業見学

SEEDS Asiaでは、講師派遣を行っています。防災に関わる内容から活動国の話等、講義から、ゲームや紙芝居などのアクティビティを取り入れた講座など、幅広い方々を対象に講演を行うことができますので、ご関心のある方は SEEDS Asia事務局 講師派遣係 (rep@seedsasia.org) までお問い合わせ下さい。

## 本部からのお知らせ

### 新スタッフ紹介

#### ミャンマー事務所（大倉 瑶子）

SEEDS Asia に 10月から入りました、大倉瑠子と申します。ミャンマー事務所の代表としてヤンゴンに駐在し、主にエヤワディ地域の学校・地域防災支援事業を担当します。私は大学卒業後、テレビ局の報道部門でディレクター・記者として働いていました。このときに取材した東日本大震災では、これまで感じたことのない悲しみや苦しみを目にして、今後の災害の被害を少しでも軽減できるよう、防災の分野に進みたいと思うようになりました。台風ハイян後のフィリピンでボランティア活動に携わり、その思いを固め、アメリカの公共政策の大学院に進学しました。在学中は半年間、震災後のネパールでローカルNGOや国際機関で防災教育事業に携わったほか、アイルランド政府の洪水政策の見直しのコンサルティングを行いました。卒業後は、アメリカ政府の災害後の仮設住宅事業を担当していましたが、もっと現場の近いところで防災に携わりたいと考えていたところ、大学院の教授に SEEDS Asia を勧められました。このご縁に感謝をしつつ、地域の人々に寄り添いながら、災害に強い学校・地域づくり貢献をしたいと考えています。至らない点も多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。





## JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh

### Japan Study Visit

SEEDS Asia invited delegates from Bangladesh to Kobe City for a Japan study visit from 4th to 11th September. Total of eleven people including officers of Dhaka North City Corporation, ward councilors, community DRR leaders, editors of local media organizations, and SEEDS Asia local staffs participated in the program. It aimed to learn from Kobe City and Kyoto City that experienced the Great Hanshin Awaji Earthquake, a devastating urban disaster, and bring the learning back to Dhaka to promote community based DRR. The delegation visited the Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial Museum, Kyoto City Disaster Prevention Center, Crisis Management Department and PR Office of Kobe City, Fire Department, Kobe Newspaper Company, and Bosai Fukushi Community (BOKOMI), learned how those various stakeholders are working on DRR issues, and made an action plan to be carried out after returning home based on the learning.

It was new and surprising for the delegation to observe that local residents take initiative in DRR voluntarily and proactively, that city government issues newsletters and uses it as a tool to raise disaster awareness, and that news organization strongly recognizes the role of media in DRR and continues to write about disaster and DRR. Importance of community DRR has been discussed continuously in Dhaka as well but it was understood much better through the Japan visit. We greatly thank those helped us realize this program for their kind support and cooperation.



Japan Study Visit

### International Day for Disaster Risk Reduction

On 13th October, three model communities participated in the Japan visit organized a DRR event to observe the International Day for Disaster Risk Reduction. One

community held an awareness session for primary school students and their parents, and taught them what earthquake is about and what they should do at and before the occurrence of an earthquake. Students enjoyed a short drama on preparedness played by the community DRR leaders. In another community, based on the belief that DRR should start from their own family, leaders organized a get-together to invite members' family and discuss about fire prevention and earthquake preparedness by utilizing video clips and quiz competition.

In Dhaka, DRR consciousness of the residents is still low and the degree of recognition of the International Day for Disaster Risk Reduction is very low. This was the first time that local communities organized a DRR event on their own initiative in Dhaka on this International Day for Disaster Risk Reduction and is a significant first step taken towards a resilient city.



DRR Workshop for Elementary School Students conducted by Model Community



## Project for Participatory Community Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi, funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA)

SEEDS Asia has been promoting a model of community-based Disaster Risk Reduction (DRR) by establishing five 'Climate Schools (CS)' as focal points of DRR/climate change education, and five 'Citizen Forums (CF)' in each CS area. The activities operated in September and October 2017 were as follows.

### Japan Study Visit

From 22nd to 29th October, SEEDS Asia conducted a Japan Study Visit by inviting six people from Climate Schools (CS), and two people from 11th National Disaster Response Force (NDRF) in Varanasi, India, totaling eight people. The purpose is to learn about knowledge and experiences of DRR Education and Disaster Management nurtured in Kyoto and strengthen capacity to promote DRR Education and DRR Activities in Varanasi.

In Kyoto City, on 24th October, the first day of the training, the delegation made a courtesy visit to Kyoto City Mayor Kadokawa, and he shared with the participants the policy on DRR and environment in Kyoto City and its achievements with visible examples and data. Then, the participants visited administrative agencies such as Kyoto City Board of Education, and Disaster Prevention and Crisis Management Department of Administrative and Budgetary Bureau of Kyoto City to comprehend the policies on DRR, environment and education. The participants learned that the collaboration between communities and schools has been succeeded for about 150 years in Kyoto City where 64 *Bangumi* (a community unit) Elementary Schools (Japan's first elementary schools) were established by community people in 1869, that DRR Activities in Kyoto City has been developed by schools and communities working together, and that improvements has been sought all the time, for example by setting DRR Education Standard for ensuring the quality of DRR Education in the City. In the afternoon on that day, a visit was made to Takakura Elementary School, which has an attribute of a *Bangumi* Elementary School. The delegation listened to the lectures regarding DRR Education at school and DRR Management and observed a Shake-Out drill during the school visit. The delegation observed that the students cleaning school buildings could take an action to protect themselves swiftly. One of the members commented, "I'm surprised to notice the students rapidly took an action to protect themselves at their own places even if they were concentrating on something else. It is the fruit of drills. I would like to try to realise this at my school."



Courtesy Visit to Mayor of Kyoto City

Since Principal Ranko Kishida of the above-mentioned school visited the DRR Workshop held in Varanasi in August 2016 with Mr. Kō Ota of Bosai Terakoya-Kyoto (Community based DRR Learning Center), the teachers in the delegation were pleased to see her again. Also, the letters as replies addressed to the children in Varanasi written by fifth grade students were given to the delegation. After that, the activities of School Management Committee called "Smile 21 Plan Committee" were introduced. The participants learned how community people have been trying to improve education of children and conducting activities to protect security. Other than the aforementioned school,

the training was conducted by visiting Voluntary Taskforce Group for Protecting Ponto-chō, Kyoto Municipal Horikawa High School, Bosai Terakoya-Kyoto (Community based DRR Learning Center), Kyoto Students FAST (Fire and Safety Team) of Ritsumeikan University, Suzaku Eighth Volunteer Disaster Prevention Team, Kyoto City Disaster Prevention Center, Kiyomizu Temple, volunteer fire corps and volunteer DRR organization of Kiyomizu school district, and water facilities for disaster prevention on cultural assets and vicinity. Some examples of DRR Activities practiced by community people and students were presented to the delegation.

On the final day, the delegates made a presentation of "the message we would like to convey to children in Varanasi" to be put on student's newsletter called "Prahari" in order to be disseminated to all over the city as well as reviewing what they learned during this visit. Then, action plan was made based on the training, and presented what they would like to implement at CSs utilizing what they learned in the training. Many very motivated comments were heard from the delegation as the following: "We were very impressed with the city without any trash on the road, and we understood that the high capacity level of community people helped to develop the City of Kyoto. Without depending on public (government) help, we would like to start promoting activities on environment and DRR at our own schools."



Visit of Network Group on Water Facilities for Disaster Prevention  
on Cultural Assets and Their Vicinity



**Philippines (Cebu)**

**JICA Grassroots Technical Cooperation Project:  
Support Project on Promotion of School  
Disaster Risk Reduction and Management in  
Cebu Province**

#### Japan Study Visit

SEEDS Asia conducted a Japan Study Visit (in Hyogo Prefecture) from 5th to 13th September with DRRM (Disaster Risk Reduction and Management) Coordinators

from Department of Education Region 7 and Schools Division Offices under the Region from the pilot cities and municipality in Cebu Province, totaling eleven participants. The Japan Study Visit is part of the capacity building training for DRRM Coordinators who are nominated as School DRRM Instructing Team to fully understand good practices on disaster preparedness and crisis/risk management implemented at schools in Japan, which will become the foundation for the project. A Disaster Risk Reduction and Management Officer from Mandaue City also participated with the City fund. The program included: lectures by Hyogo Prefectural Board of Education; observation of actual disaster drills at schools; visits to disaster-affected areas and Disaster Reduction and Human Renovation Institution (DRR Museum). At the final workshop the participants presented ideas to improve their school DRRM based on what they learned during the visit. Prior to the training, on 11th, 16th and 29th August, SEEDS Asia conducted a series of pre-departure orientation and preparation meetings to explain the purpose and brief overview of the training, and business customs in Japan. After the visit, one of the participants showed motivation to implement a project to apply the knowhow learned during the training, and made positive comments, "This journey helped me so much to improve my capacity, knowledge and skills to perform my mandated duties. This learning experience will help me efficiently and effectively implement the different programs, activities, and projects of DRRM in collaboration with Division DRRM Coordinators, Local Disaster Risk Reduction Management officers, and other stakeholders in the community".



Group Photo during Study Visit in Japan

### Training in the Philippines

In addition to the Japan Study Visit, SEEDS Asia conducted a training in Cebu Province from 16th to 20th October for five days for the School DRRM Instructing Team along with other representatives from the Department of Education Region 7 and Schools Division Offices, total of eighteen participants. The purpose is to strengthen the capacity of the School DRRM Instructing Team. The training consisted of six sessions: introduction, planning, stakeholders' engagement, application exercises, assessment, and

closing, involving thirty trainings with exercises. SEEDS Asia also provided technical lectures by inviting guest speakers such as Officer-in-Charge for Philippines Atmospheric Geophysical and Astronomical Services Administration, City engineer, Officer for Bureau of Fire Protection, DRR specialist from Manila City, Officer for Department of Social Welfare and Development, Disaster Risk Reduction Officers from Cebu Province and from Talisay City. On the last day, participants took a completion exam for their achievement level evaluation of the training. One of the participants mentioned "In the training, I was able to acquire in-depth understanding of the DRRM system and standards at school for the common goal of life safety and resiliency." SEEDS Asia and the participants will work on making School DRRM Operations Guideline based on this training and Japan Study Visit.



Photo during the Training in the Philippines

### Memorandum of Understanding Signing with Cebu City

On 22nd September, signing of the Memorandum of Understanding (MOU) between the Cebu City Government, one of the pilot areas, and SEEDS Asia was held in order to strengthen the collaborative partnership between the two parties in implementing the project. The signatory on behalf of the Cebu City Government was the City Mayor - Honorable Tomas Osmeña with Cebu City DRRM Officer-In-Charge - Mr. Nagiel Bañacia as its witness. The ceremony was scheduled after SEEDS Asia met with the Mayor for a Project Commitment meeting held last 28th June. SEEDS Asia is scheduling MoU signings and meetings with other mayors as well to promote the cooperation between education administrations and Disaster Risk Reduction administrations of Local Government Units in pilot areas.



## Project Funded by Central Community Chest of Japan: Project on Capacity Building of Disaster Risk Management for Village Development Committees (VDCs)

### DRR Workshop at Jhangajholi RatamataVDC

After the Nepal Earthquake in April 2015, SEEDS Asia handled emergency support to provide subsistence goods and educational kits. Then, SEEDS Asia has been conducting DRR Workshops with the local NGO, Centre for Disaster and Climate Change Studies (CDCCS), as community DRR activity support for "Build Back Better" reconstruction.



Learning about Disasters at Workshop

DRR Workshop consists of seven-part series, and it is planned to be conducted in three VDCs in Sindhuli District. Following the Purano Jhangajholi VDC where the whole seven workshops were completed in April, the workshop were conducted in Jhangajholi Ratamata VDC from July to September after the election.



Evacuation Drill

In the first four series of the workshops, about twenty VDC members studied about disasters and the outline of laws relating to disasters in Nepal and DRR policies and plans of the governments, and discussed about what needs to be done for DRR in the community. DRR training was planned in the fifth workshop, and the participatory DRR training was conducted in the sixth workshop. 51 residents participated in the workshops also wrote songs and poems concerning disasters, and raised their consciousness for DRR. Some feedbacks in the seventh workshop are: "I understood how to act at disaster." "It was good to learn about various disasters since many people think earthquakes are the only disaster." "I felt that it is better for people in various situations to participate in this kind of workshops."

Next workshop is planned to be held in the third VDC, Kusheshwor Dumja VDC. In addition, many people talked about their own experiences throughout the workshops. These are challenges for DRR and also valuable lessons which needs to be talked about long into the future. A leaflet is planned to be prepared to hand down these lessons from generation to generation.



Evacuation Drill Participants of Jhangajholi Ratamata VDC

### (1) Joint Project with Tamba City for Community Development

#### Teachers' Training at Yoshimi Elementary School

On 27th September, SEEDS Asia was invited to the teachers' training at Yoshimi Elementary School, one of the appointed schools of DRR Education in Tamba City. The talk was about the importance of school DRR and featured an actual school which experienced the Great East Japan Earthquake and Tsunami (GEJET). The emphasis was on what a significant role it can play in emergencies to have a strong partnership between schools and their communities on a daily basis and utilize DRR town-watching and mapping by the partnership.

One young teacher expressed her impression: "Since I have not experienced a huge disaster such as the Great Hanshin-Awaji Earthquake or GEJET, I had difficulty conducting DRR Education and imparting the experiences of past disasters to our students. However, the talk made me determined that I myself have to look deeply into those experiences, and must keep discussing with other teachers so that the lives of our students will be protected in emergencies."

#### DRR Orienteering by Takeda Elementary School

On 25th October, Takeda Elementary School conducted their "DRR Orienteering". This activity combined an existing activity where students visit their local residents and organizations to learn about their home community and DRR Education. The destinations included a farm which was affected by the 2014 torrential rain disaster and is now cropping hydrangea as a recovery project, and an affected temple. Takeda district was affected by the said disaster. The representative of the farm asked the students if their houses were affected by the sediment flows, and one student raised his hand. The representative's message was: "We did not lose hope even in a difficult situation



Visit to the Farm

because of the help received from other people. I hope that all of you will also be able to help others." The priest of the affected temple explained with many photos about the time of the disaster when sediments flew into the main building of the temple. The temple also received help from volunteers in its rehabilitation process which is still ongoing. The importance of life was emphasized in the talks by both of the farm and the temple.

This was the first trial of "DRR Orienteering" by the school. The teachers must have gone through challenges, but this will definitely raise awareness of DRR among the students.



Explanation by the Temple Priest

#### (2) Dispatch of Lecturers to Conduct DRR Class or Event

SEEDS Asia dispatched staff members as lecturers to conduct DRR training or classes in a wide range of methods and contents on the requests from any organizations such as schools, municipalities, residential communities and private sectors. In September and October 2017, our staff members provided the following lectures.

#### AXA-UNESCO Association Disaster Risk Mitigation Education Program

From 18th to 20th September, SEEDS Asia participated as coordinator and instructor in the Training for Teachers of the Fourth AXA-UNESCO Association Disaster Risk Mitigation Education Program, organized by the National Federation of UNESCO Associations in Japan in cooperation with AXA Life Insurance Co.,Ltd., held in Kesennuma City, Miyagi Prefecture and Ichinoseki City, Iwate Prefecture.

The purpose of this program is to utilize the lessons learned through the visits to the affected areas of the Great East Japan Earthquake in the Disaster Risk Mitigation Education at their own schools. 36 teachers from 22 schools selected from all over Japan gathered and participated in the sessions about ESD (Education for Sustainable Development), Disaster Risk Reduction and Mitigation Education, network construction, curricula using "Disaster Education Sheet" developed in cooperation



Group Photo with Training Participants

with SEEDS Asia in 2013, and a lecture by the Board of Education in Kesennuma City. They also observed Disaster Risk Reduction classes at Hashikami Elementary School developed based on SEEDS Asia's project on support for the people affected by the Great East Japan Earthquake & Tsunami conducted until last year, visited Koyo High School in Kesennuma City, the disaster remains of the earthquake, and listened to the lecture by the Board of Education in Kesennuma City.



Observation of a Disaster Risk Mitigation Class

During the final workshop, the teachers presented what they learned during the training and their visions. Some participants commented "Various evacuation drills and hazard map makings for the Nankai Trough Earthquake" and "Disaster Risk Reduction and Mitigation Education with community as the core" are needed or should be introduced. Participants will improve their Disaster Risk Mitigation Education at their own schools, and present their practices and learn from each other during the debrief session in February 2018.

In general, SEEDS Asia dispatches staff members to organizations upon request, to give lectures (also with games or picture-card shows) with wide range of targets and topics which relates to our activities. If you are interested in inviting our lecturers on DRR, please kindly contact: SEEDS Asia Headquarters (rep@seedsasia.org).

#### New staff member

#### Myanmar Office (Yoko Okura)

Hello, my name is Yoko Okura, the incoming Country Representative of SEEDS Asia's Myanmar Office. I am very excited to move to Yangon and experience the rich beautiful culture of the country. My main project will be school/community based disaster risk reduction programs in the Ayeyarwady Region. I graduated from Harvard University, John F. Kennedy School of Government, with a Master in Public Policy in May 2017. After graduation, I worked with MIT (Massachusetts Institute of Technology) on devising policies to improve post-disaster housing in the United States. I first became interested in disaster preparedness when I worked as a news reporter in Japan covering the 2011 Great East Japan Earthquake. This event led me to pursue my graduate degree. During graduate school, I realized the importance of community based initiatives when I worked for half a year in Nepal and consulted the Irish government on their flood preparedness policy. I am very excited to be part of SEEDS Asia and look forward to working with you all.

